

特集

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の検査マニュアル—方法・結果とその解釈

序文

八木聰明*

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の機能検査には多くのものがあります。ここに挙げた項目は、そのほとんどを網羅しているものです。われわれは、これらすべての項目について、その検査方法を知り、その結果について考察する力をもたなければなりません。とはいえ、各自がこれだけの検査すべてのエキスパートであることは難しいのも事実です。また、検査方法やその結果の解釈は常に一定ではなく、新たに生れ、変化するものです。例えば、比較的最近まであまり注目を集めなかった嚥下検査は、現在は耳鼻咽喉科・頭頸部外科医にとって、必要不可欠のものになっています。

本マニュアルは、これから検査を覚える医師、検査を行ったがその結果の解釈をどうすべきか悩んでいる医師、現在自らは検査を行う機会がほとんどないが結果の解釈が必要な医師に対応できるように企画し編集しました。専門医研修を行っている医師には、ぜひとも自らすべての検査を行うようにしてもらいたいものです。自ら検査を行うことによって、検査方法の問題点の発見や結果をどのように解釈したらよいかについてのアイデアが得られるはずです。すでに、多くの検査を行っているが、自分の専門領域以外の検査について、その結果をどのようにみるかについて考えている医師にも対応できるようにしました。また、多くの経験を有している専門医には、日進月歩の機能検査が現在どのようなになっているのか、その結果はどのように得られ、どのように解釈すべきかといった知識の供給源としても有用になるような企画・編集を心がけました。

本特集では、実際にこれらの領域で指導的立場にある第一線の先生に執筆をお願いしました。各執筆者は、編集子の主旨に沿って完成度の高い執筆をしてくれました。本書が、臨床の場で広く用いられることを願っています。

* やぎ としあき：千葉・柏リハビリテーション学院（〒277-0902 千葉県柏市大井 2673-1）